

◆ 今週のコメント

- インフルエンザの定点当たり報告数は、0.18(12例)で、先週(0.03, 2例)に比べ増加しています。今シーズン(第36週～)、全国の病原体検出情報(11月19日現在)に報告されたインフルエンザウイルス型別割合をみると、AH1pdm(新型)が26.9%、AH3亜型(A香港型)が70.4%、B型が2.8%で、AH3亜型の割合が高くなっています。
- RSウイルス感染症の定点当たり報告数は、0.55(22例)で、4週連続で増加しており、過去5年平均値の約5倍と非常に多くなっています。年齢階級別では、すべて2歳以下で、重症化しやすい6箇月未満が9例(40.9%)と、最も多くなっています。例年、冬季に向けて増加しますので、今後の動向にご注意ください。
- 水痘の定点当たり報告数は、0.88(35例)で、先週に比べ増加しています。年齢階級別では、2歳と3歳がともに7例(20.0%)で最も多く、次いで1歳と4歳が5例(14.3%)となっています。例年、冬季に向けて増加しますので、今後の動向にご注意ください。
- 伝染性紅斑の定点当たり報告数は0.48(19例)で、依然として過去5年平均値(0.13)を大きく上回っています。

◆ 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、4.88(195例)で、2週連続で増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 33例】
- 五類:アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 17例】
- 五類:梅毒(早期顕性梅毒I期) 1例【1月以降の累積報告数 4例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.18	12
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.88	195
	② 水痘	0.88	35
	③ 流行性耳下腺炎	0.60	24
	④ RSウイルス感染症	0.55	22
	⑤ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50	20
眼科	流行性角結膜炎	1.30	13

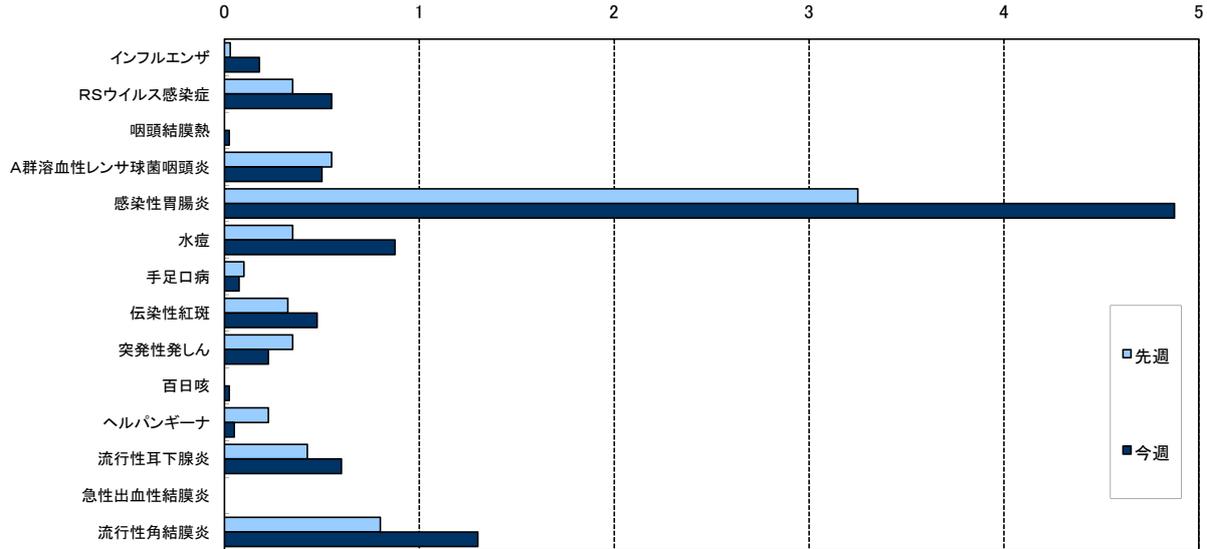
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

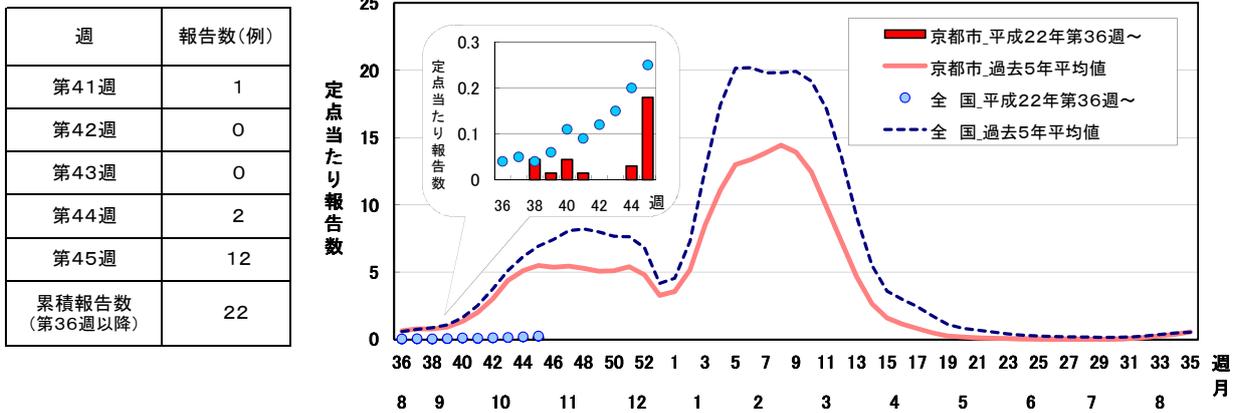
(注) 京都市のデータは、平成22年11月18日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第45週)と先週(第44週)の定点当たり報告数の比較

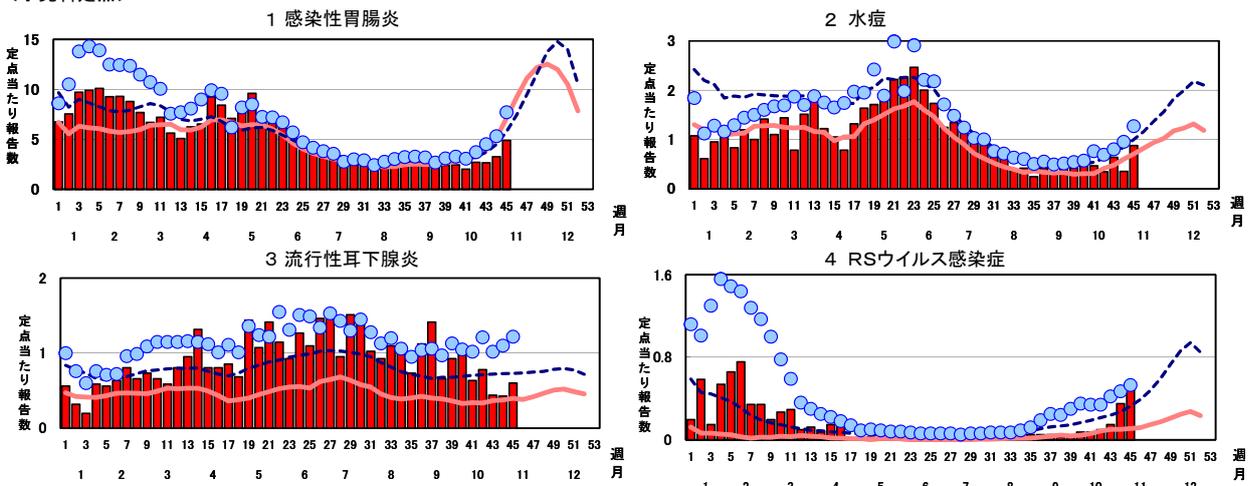


2 インフルエンザの推移

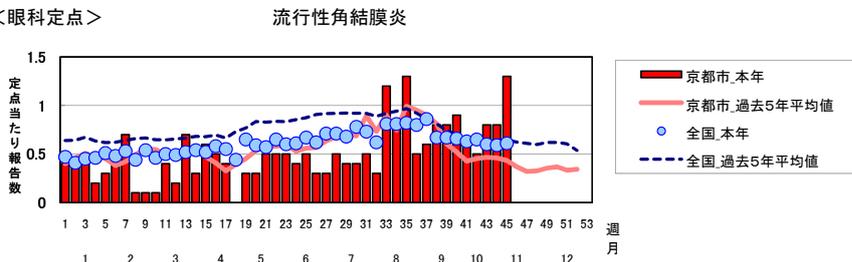


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第45週(11月8日～11月14日)トピックス: <感染性胃腸炎>

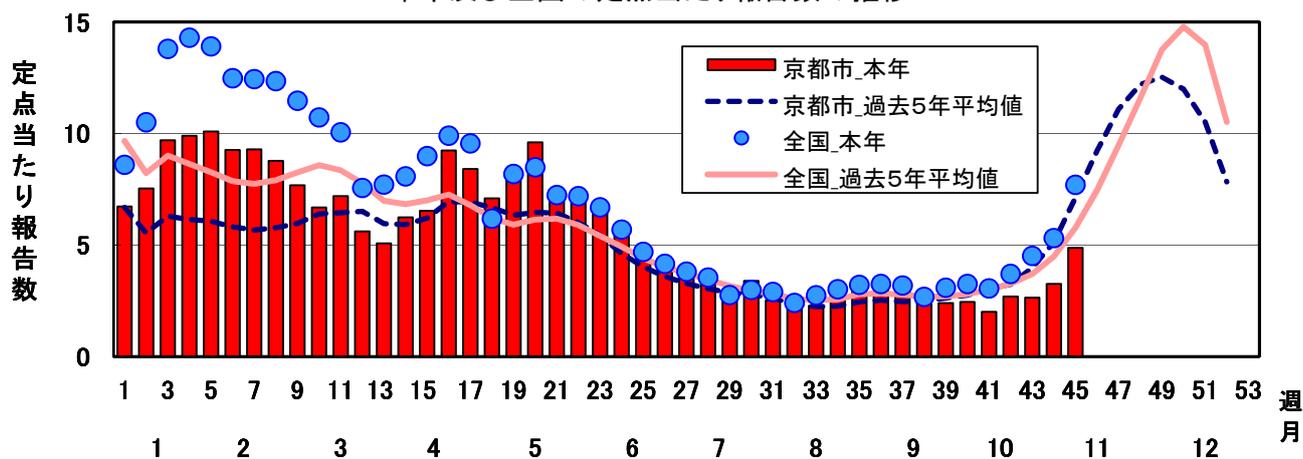
感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、4.88(195例)で、2週連続して増加しています。例年、11月後半から12月にかけて流行のピークがみられます。今後の動向にご注意ください。

年齢階級別では、各年齢層から報告がありますが、半数以上を4歳以下が占めています。

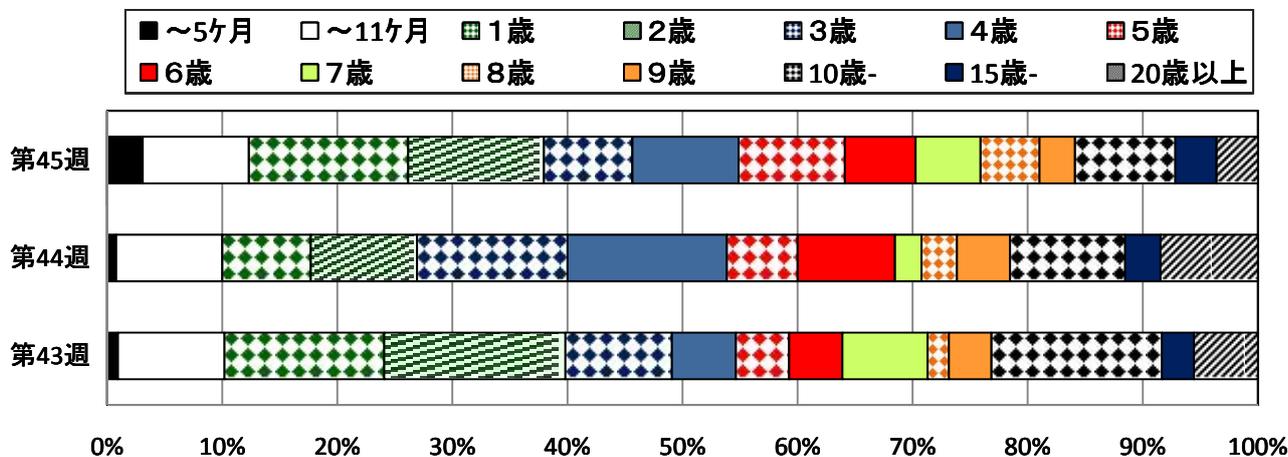
行政区別では、11行政区のうち9行政区で、先週に比べ増加しています。

感染性胃腸炎の主な原因であるノロウイルスの集団感染が、京都市内の社会福祉施設において発生しています。京都市衛生環境研究所で検査した検体からは、近年、主流となっているノロウイルスGⅡを検出しています。

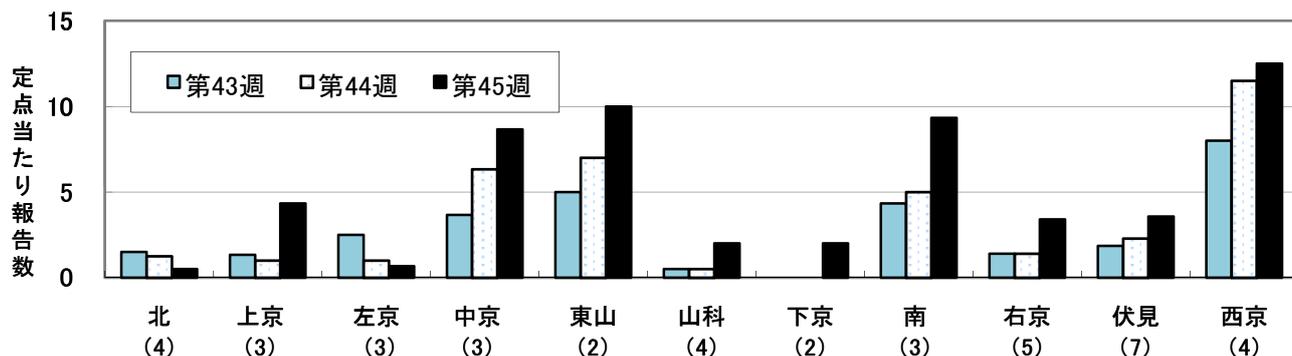
本市及び全国の定点当たり報告数の推移



年齢階級別割合の推移



行政区別定点当たり報告数の推移



()内は、定点医療機関数